



ほけんだより 11月号

令和6年11月19日
認定こども園あおがき
(医)第8号

せきの風邪、おなかの風邪がはやりやすい時期になってきました。丹波市でもマイコプラズマ肺炎などの感染症にかかる方が増えてきているようです。朝晩の冷え込みで、体調も崩しやすくなっています。規則正しい生活で体を守り、予防接種や手洗いで風邪を防ぎましょう。

知っておきたい 冬の感染症

インフルエンザ

突然高い熱が出て、数日続きます。食欲がなくなり、関節や筋肉の痛みが出ることも。

子どもは「だるい」と言えないことが多く、「元気がない」「きげんが悪い」といった状態が続きます。通常、1週間ほどで回復します。

ノロウイルス感染症 (ウイルス性胃腸炎)

「流行性嘔吐下痢症」と呼ばれるとおり、激しいおう吐と下痢が起こります。ほとんどの場合1～3日で回復しますが、脱水症を起こすことがあり、油断は禁物です。

備えていますか？

予防接種

インフルエンザの予防接種は、丹波市では10月から始まりました。小さな子どもは、2回接種が必要です。

流行シーズン前に十分に免疫を上げておくために、早めに1回目の接種を終わらせておきましょう。



備えていますか？

塩素系消毒薬

ノロウイルスは感染力が強く、嘔吐物で汚れた衣類などの消毒には塩素系消毒薬が必要です。

急な発症に備えて、念のため塩素系消毒薬を用意しておくとう安心です。



人だみを避ける

インフルエンザなどは、人のくしゃみやせきのしぶきを吸い込むことで感染します。人の多いところでは、感染のリスクが高くなります。



手をよく洗う

ウイルスのついた手で口や鼻、目などに触れるとそこからウイルスが体内に入り込みます。外から帰ったとき、食事の前など、こまめに手を洗いましょう。

マスクをつける

マスクは、せきやくしゃみのしぶきが広がるのを防ぐほか、無意識のうちに口や鼻を触るのを防ぐ効果があります。



おう吐で汚れた服を消毒するときは……

吐いたものの中には、ノロウイルスなどが含まれている可能性があります。きっちり消毒して、感染を防ぎましょう。

① 手袋とマスクをつける

素手で触れないよう、ゴム手袋や使い捨てのビニール手袋をつけましょう。また、使い捨てマスクをつけておくと安心です。

② 換気しながら開封する

吐いたものにウイルスが含まれていることがあります。乾燥したウイルスが体内に入ると、感染することがあるため、必ず換気ができる場所で袋を開けましょう。

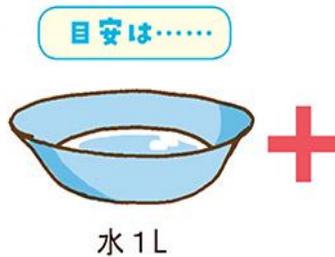
③ 汚れを取り除く

服についた汚れをペーパータオルなどでふき取ります。取り除いた汚れにはウイルスが含まれているおそれがあるので、汚れをふき取ったペーパータオルはポリ袋を二重に密封して捨てましょう。



④ 消毒液を作る

塩素系消毒薬を、0.1%の濃度に薄めます。製品に記載されている希釈方法を守りましょう。



注意! 色落ちします!

塩素系消毒薬は、衣類につくと色落ちします。色落ちさせたくない場合は、85度以上の熱湯に1分間つける方法もあります。

⑤ 消毒液にしっかり浸す



消毒液が行き渡るよう衣類を広げ、しっかり消毒液に浸します。

⑥ ほかのものと分けて洗濯する

消毒が終わったら、ほかの衣類と分けて洗濯します。

⑦ 手などをよく洗う

処理に使った使い捨て手袋やマスクはポリ袋に密封して捨て、最後に手を流水とせっけんでよく洗いましょう。

園では、お子さんがおう吐した場合、園内の感染流行を防ぐために洗わず、密封してお渡ししています。

ご家庭で消毒・洗濯をしていただくよう、ご理解とご協力をお願いします。